



**G8
宗教指導者
サミット**

北海道の洞爺湖で開催された主要国首脳会議に、世界の宗教指導者から「地球と生きる」をテーマにしたG8サミットに普遍価値を提言すべく、「G8宗教指導者サミット」(文芸春秋)が6月27日(文芸春秋)に開催され、慶應野山真言宗学長、長門寺学長、四天王寺学長らが6月27日(文芸春秋)に開催され、

格差社会、食糧危機、政治経済の問題を克服する一途として「地球課題」として提示した。この地帯は、人類の繁栄を通じて、

がなされた。

分かれた分科会では、住吉大社、上賀茂神社、西本願寺、佛光寺等といった長い伝統を持つ寺社を会場として設定。G8各国をはじめ、仏教、神道、キリスト教、イスラーム、ユダヤ教、ヒンズー教、シーク教を含む33カ国の宗教指導者74名が活発な討議を繰り広げ

た。これまでに、欧米から主導し、日本の大教団が資金を提供し、会議を一定の方向に持っていたとする予定調和ではなく、アフリカや中東の宗教者も主体的に参加し、民族や宗派を超えた真の対話がなされた。

提言文の採択に向けて意見は最後までもつれた

機卿（パチカ）諸宗教対話評議会議長）からも協

終て実現した。

イ・ゴマ師（エジプト共和国イスラム最高指導者）を始めとする中東からも多く参加

ジョージ・ケアリ・前カシタバリー・トウラン板

ンリルイ・トゥーラン板

以来一年の準備期間を

既存の対話組織超え一堂に集結

一神教文明を背景とする。欧米先進国が行き詰まりを見せる時代に、神仏習合の歴史を持つ日本でサミット開催は意義深い。

取り入れた新たな産業経路を構築する。このことは「宗教者自身の罪」と受け止め、アフリカ支援についても、相互的・協同的援助となるよう価値を提示した。

抑圧する現状を看過するを促した提言文を採択。宗教者自身のいずれの問題にも宗教者が経済至上主義に警鐘を鳴らし、宗教が持つ普遍的価値を提示した。

園田番が「地球感謝の鐘」を鳴らし、世界の安寧を祈願した。今回のG8宗教指導者サミットは、諸宗教対話の第一歩として、世界平和の基盤を築くことが期待される。

から帰国後すぐに国内の諸宗教対話団体や各宗派へ協力を要請し、国際宗教同志会やIARF日本連帯協議会、世界連邦仏教連絡会が中心となり、

提言文の採択に向け議論は白熱



自然との共生が討議された

に神仏の叡智が息づく



橋下徹大阪府知事
超多忙を割き、期待の弁

プログラムには全体会議だけでなく、3つのサブテーマ
モデレータには安田喜憲国際日本文化研究センター教
（町田宗鳳広島大学環境平和学プロジェクト研究セ
リカと生きる）（井上昭夫国連UNITAR特別上席
科会）で討議した。

も、公平な意見交換の
も討議された。
今サミットは「一昨年に
ロシア、昨年のドイツで
の開催を受けてのもの。
三宅事務局長がドイツか
またた大学や宗教が会場
設定を担った他、大阪府
西成あいりん地区の現地
視察を行うなど、今回の
G8宗教指導者サミット
開催の意義は大きい。

西村昭太郎天台宗管長は
講演で「フードマイレージ」
を提唱。環境の負荷に対
し仏教の教えに答え求め

改会での分科会

解決にこそこのあり方問う

あいりん地区で日本における貧困の現状を目の当たりに

西成いりぬ地区の視察では、日本の影の部分を実象することによって貧困化が進行していることを確認。各国が行政への早急な見直しを提案し、先進国日本が抱える問題の一つを浮かび上がらせた。

視察を終えた宗教者の一人は、アフリカと日本の貧困を比較し、アフリカのような経済的な貧困ではなく、日本はこの貧困を抱えている」と述べ、日本には信仰心と未来への希望がないと根本原因を推測。「この」の抱け所を十分提供できていない日本の宗教界の現状が浮き彫りになった。

これまでの諸宗教対話に関する会議では、理念や運営のあり方は欧米が示し、資金は日本の教団が提供するものであった。今回は開催国の日本が理念を示し、参加者自らが旅費を捻出また発言する機会が少ない非欧

米諸国からの意見も取り入れ新しい会議のあり方を構築していく。あいりぬ地区の抱える従来の資金提供国として日本だけでなく、これまで創造を見出す目的であった。

記者会見に出席した諮問委員たちからも「諸宗教者が意欲的にかち合い、相手を尊敬できる会議の形を提示できた」とコメントし、真に開かれたグローバル・ミッションへと眼差しが向けられた。

閉会式で三宅光雄運営委員長（金光教皇尾会長）が、「私たちはG8首脳陣だけではなく、たす宗教者が実行する場文と考へ、この開会が実行けての始まりである」と述べてとうり、今会議で掲げられたいミットに引き継がれていく。和への理念は間違いない次のミットに引き継がれていく。

「自然と生きる」
27日の全体会議でモ
ゴル仏教のC・タンバ
フ管長は、自然の荒廃
ついて世界で起る環境
変化の原因は総て人間
問題だと指摘。分科会
経た安田教授も「サム
ングクレイト」として
類が共通して持つ自然
の畏敬や認知から、人
の心の問題に言及。心
定義にはインドやハ
トだけではなく、意を
含めた提案が出され
中、迅速な産業経済社
の変革を促した。

「民族と生きる」
民族の多様性につい
の分科会では、今も確

されている国名の具体的な記名に、欧米や中東から反対の声が挙がり、政治、軍事的に抑圧されている他国への配慮から「」に打ち消されたもの、最終日の全体会議で列挙することが決まった。それは多宗教が共存し、寛容さを併せ持つことが日本から、切実な行動が伴う宗教者の意思であり、他者の痛みを私の痛みとして受け入れる共通の責任から生じた宗教者の折りであった。

「アフリカと生きる」

アフリカ問題はラマデイオフ・セネガル大統領顧問やアドルナセル駐日エジプト大使から進行

中のアフリカの共同開発について報告された。こうした発展を遂げる中、先進国が「開発」と称して伝統文化を踏みにじるのではなく、援助国として「協力」する必要性を強調。井上顧問がこれまでの新興国の開発とアフリカ問題の共通点を示し、資源あふれるアフリカが一向に豊かにならない原因に、「今なお植民地支配が続いている」と断じている。「アフリカの未来は人類の未来であり、宗教の未来も含有する。アフリカ各地の文化、宗教の伝統を理解し、まずは教育の充実こそ優先すべき課題である」と結論づけた。

世界のさまざまな宗教の指導者であるわれわれは、京都にも集った。環境の危機と災害、経済的・社会的機能不全や政治的・道徳的危機に対して、共有する信念と使命について宣言する。

われわれは、世界を取り巻く繁栄と貧困という両方の問題を抱えている。持続可能なライフスタイルに自分たちを適合させ、より公平になるために富を分かち合い、天災・人災の被災者に対する同情の気持ちを行なうに移し、世界の各所で見られる不正義を正すためにより深く関わりて行くことに、われわれは努力を傾ける。

1 自然と生きる

われわれは、省資源に取

り組む、低炭素社会へ移行するのために尽力する。物質主義と消費主義に毒されていくということを認識してもらい、自然破壊を止もうとする者が暴走することを抑制するように、われわれ宗教者には信者を指導し、他者の幸福と繁栄を祈る利他の「こころ」、他者愛し慈しむ慈悲の「こころ」を人類がわたり取り戻さなければならぬ。この危うい状況の解決は不可能で

提言文

2 民族的・宗教的多様性：ひとつの使命
神が創造した宇宙は、多様な性質をもった多種多様な文化や宗教によって

て、もっとも鮮やかに表
されてゐる。にもかかわ
らず、人類社会は今も昔
も強者が弱者を抑圧し、そ
多様性を抹殺しようとし
動きがある。例えば、チ
ットやミランマーで起
男女間の平等と貧富の格
の縮小、という問題も横た

要旨

ている。しかし、それ
の問題に対して、宗教者
は、他者を責めるという形
ではなく、他ならぬ「自分
身の問題」であるという主
体的な痛みを感じるという
始めなくてはならな
。宗教主義あらゆる絶
に對抗する精神において
宗教者こそ解決の場

へ自ら身を置き、すべての傷ついた人々に対する慈悲心で折り、そして行動することに関与するのである。

3 アフリカ・貧困の精算

アフリカでは、新植民地主義といふ兩端が統一中、様々な形態の貧困が生み出され、それにより、さらに複雑な環境問題や政治問題が引き起こされている。

われわれ宗教指導者には、アフリカとG8諸国間における広範囲にわたる深い学生交流を行うためのスカラーシップ基金を設立することを提言する。その目的の実現に貢献するために、この度のG8首脳会議がこの点についてディスカッションすることを求めずか一年の間に

この特別な提共同体の発展に育の必要性が極めることを反る。

結論 この提言書は1、2、3の三において具体的進かをモニタリー年間のい期限る。また、われ導者は、各国政これの提言に対しけ真摯に取り組うことを自ら精度のG8宗教指導が開催されるランスシート(Ⅱ)価表Ⅲを作成進度度合いを進教導して次回この会が一年の間に

言は、地球は、地球の危機に直面してゐる。教へて、何をすべきか、その最も重要な、より粗筋の完成度合い、そして、厳しき査定、評価をすればよい。

上述した、上野の分野にちとつものを神聖に相互に連関したものでと考へて、生きた、いけるものの中で最も高貴をもっている人類は、神に絶滅の危機を預けて、働き易くて、生物のこゝを顧み、ここに手をこまねる責任に、したがつて、生れたあながた、生るべき、政府の政（生）の、地球の生とて生るもの、に対して、アエ、かどつかと問ひかけ、視する、を切望する。

たのめ
ついで
しな
いの
かつ
しし
知
弱
い
ま
れ
を
有
わ
G8
策
ある
監
。

総理官邸に「提言文」を提出

三宅事務局長とムッケンゲシャイ・マタタロ閣下委員、オリエンズ宗教研究所所長は、6月30日に総理大臣官邸を訪れ、大野松茂内閣官房副長官に「提言文」を手渡した。これには、開会式で高村正彦外務大臣のメッセージを代読した中山泰秀参大臣のメッセージの両者が入る。



三宅事務局長とムッケンゲシャイ・マタタロ閣下委員、オリエンズ宗教研究所所長は、6月30日に総理大臣官邸を訪れ、大野松茂内閣官房副長官に「提言文」を手渡した。これには、開会式で高村正彦外務大臣のメッセージを代読した中山泰秀参大臣のメッセージの両者が入る。

総理官邸に「提言文」を提出

三宅事務局長とムッケンゲシャイ・マタタ閣下委員（オリエンツ宗教研究所所長）は6月30日に総理大臣官邸を訪れ、大野松茂内閣官房副長官に「提言文」を手渡した。これには、開会式で高村正彦外務大臣のメッセージを代読した中山泰